

## 医療機関向け調査の結果について（まとめ）

### 1 概要

医療ツーリズムを推進する上での現状の把握及び課題等を明らかにすることを目的に、県内の全ての病院に対して、平成 28 年度を対象期間とした「外国人患者の受入れ<sup>\*</sup>状況に関するアンケート」を実施した。

※本調査において、「外国人患者の受入れ」とは、「愛知県の医療機関で受診することを目的に訪日した外国人患者に「健診・検診」や「治療」を実施すること」と定義し、単に観光や仕事等を目的に訪日した外国人が突然の病気等で受診した場合や、日本に在住する外国人患者に対する診療は除く。

2 調査対象 県内 323 病院

3 調査期間 平成 29 年 8 月 1 日（火）～8 月 23 日（水）

4 回収状況 187 病院から回答を得た。（回収率 57.9%）

### 5 結果概要

- **16 病院が外国人患者の受入れを実施**し、うち 4 病院は過去 1 年以内に実施を開始している。また、**1 病院が実施を予定**している。
- 健診・検診分野、治療分野ともに、**中国からの受入数が最も多い**。
- 受入れをしている**診療分野・診療科は、健診・検診が最も多い**。次いで循環器科、消化器科が多い。
- 価格設定は、「**診療報酬単価と同じ又はそれ以下**」、及び「**診療報酬単価の 2 倍以上**」が多い。次いで、診療報酬単価の 1.1 倍以上～2 倍未満が多い。
- **外国人患者受入れのために実施**している（しようとしている）こととしては、「**医療通訳を院外から必要に応じて手配**」、「**契約書、同意書、検査内容説明書等の各種文書の多言語対応**」、「**多言語に対応した院内表示**」などが多い。

## 6 前回調査との比較

- 前回調査（対象期間：平成 27 年度）では、16 病院（2 病院は予定）において 224 人の外国人患者を受け入れていた。
- 今回調査（対象期間：平成 28 年度）では、17 病院（1 病院は予定）において 244 人の外国人患者を受け入れており、**前回調査から病院数・受入れ患者数ともに増加**している。

※前回調査での回答のうち、調査目的と異なることが判明したものを除く

- なお、中国からの受入れ数が最も多く、受入れをしている診療分野・診療科は健診・検診が最も多い点は、前回から変化が見られない。

## 医療機関向け調査の結果について

### 1 概要

医療ツーリズムを推進する上での現状の把握及び課題等を明らかにすることを目的に、県内の全ての病院に対して、平成 28 年度を対象期間とした「外国人患者の受入れ<sup>\*</sup>状況に関するアンケート」を実施した。

※本調査において、「外国人患者の受入れ」とは、「愛知県の医療機関で受診することを目的に訪日した外国人患者に「健診・検診」や「治療」を実施すること」と定義し、単に観光や仕事等を目的に訪日した外国人が突然の病気等で受診した場合や、日本に在住する外国人患者に対する診療は除く。

### 2 調査対象

県内 323 病院

### 3 調査期間

平成 29 年 8 月 1 日（火）～ 8 月 23 日（水）

### 4 回収状況

187 病院から回答を得た。（回収率 57.9%）

### 5 調査結果

次ページ以降のとおり

※表中の数字は「病院数」です。また、四捨五入のため割合の合計が 100%にならない場合があります。

### 6 まとめ

- 県内の「16 病院が外国人患者の受入れを実施」し、「1 病院が実施を予定」している。
- 受入れをしている診療分野・診療科は、「健診・検診」が最も多く、「中国」からの受入数が最も多い。
- 外国人患者受入れのために実施している（しようとしている）こととしては、「医療通訳を院外から必要に応じて手配」、「契約書、同意書、検査内容説明書等の各種文書の多言語対応」、「多言語に対応した院内表示」など、多言語対応が多くなっている。

(1) 病床数別にみた外国人患者受入れ状況

県内の16病院が外国人患者の受入れを「実施している」と回答し、1病院が「実施予定」と回答した。

病床数で見ると、5病院が「100～149床」、4病院が「500床以上」となっている。

病床数区分 (床)	N	過去1年以内に実施	過去1年以上前から実施	実施予定	検討中・未定	実施予定はない
20～29	4	1(25.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	3(75.0%)
30～49	18	0(0.0%)	1(5.6%)	0(0.0%)	1(5.6%)	16(88.9%)
50～99	36	1(2.8%)	0(0.0%)	0(0.0%)	11(30.6%)	24(66.7%)
100～149	35	1(2.9%)	4(11.4%)	0(0.0%)	6(17.1%)	24(68.6%)
150～199	24	1(4.2%)	1(4.2%)	0(0.0%)	3(12.5%)	19(79.2%)
200～299	19	0(0.0%)	1(5.3%)	1(5.3%)	6(31.6%)	11(57.9%)
300～499	29	0(0.0%)	1(3.4%)	0(0.0%)	7(24.1%)	21(72.4%)
500以上	23	0(0.0%)	4(17.4%)	0(0.0%)	6(26.1%)	13(56.5%)
計	188※	4(2.1%)	12(6.4%)	1(0.5%)	40(21.3%)	131(69.7%)

※複数選択した病院があるため、全回答数(187)を上回っている。

(2) 外国人患者受入れを実施した経緯【過去1年以内に実施した病院のみ】

外国人患者の受入れを実施するようになった経緯としては、2病院が「**自院の方針として自ら開始**」、1病院が「国際医療コーディネーターからの紹介」、1病院が「他の医療機関が受入を行っている患者の検査の一部を受託」と回答した。

外国人患者受入れを実施する経緯	回答数 (N=4)	質問対象外の 回答(N=7)
外国人患者又は家族からの依頼	0(0.0%)	3
自院の方針として自ら開始	2(50.0%)	2
国際医療コーディネーターからの紹介	1(25.0%)	0
保険会社からの紹介	0(0.0%)	0
旅行会社等からの紹介	0(0.0%)	1
他の医療機関が受入を行っている患者の検査の一部を受託	1(25.0%)	0
不明	0(0.0%)	1

(3) 外国人患者受入れ人数【複数回答】

平成 28 年度の外国人患者の受入れ人数は、「健診・検診分野」では中国が大部分を占め、他にはベトナムのみとなっている。「治療分野」でも中国が過半を占め、他にはベトナム始め 4 か国となっている。

《健診・検診分野》

受入れ人数 (N=8)	1～5 人 未満	5～10 人 未満	10～20 人 未満	20～30 人 未満	30～40 人 未満
中 国	1 (12.5%)	2 (25.0%)	2 (25.0%)	0 ( 0.0%)	2 (25.0%)
ベトナム	0 ( 0.0%)	1 (12.5%)	0 ( 0.0%)	0 ( 0.0%)	0 ( 0.0%)

《治療分野》

受入れ人数 (N=12)	1～5 人 未満	5～10 人 未満	10～20 人 未満	20～30 人 未満	30～50 人 未満	50～100 人 未満
中 国	4 (33.3%)	1 ( 8.3%)	0 ( 0.0%)	0 ( 0.0%)	0 ( 0.0%)	2 (16.7%)
モンゴル	1 ( 8.3%)	0 ( 0.0%)	0 ( 0.0%)	0 ( 0.0%)	0 ( 0.0%)	0 ( 0.0%)
マレーシア	1 ( 8.3%)	0 ( 0.0%)	0 ( 0.0%)	0 ( 0.0%)	0 ( 0.0%)	0 ( 0.0%)
ベトナム	2 (16.7%)	0 ( 0.0%)	0 ( 0.0%)	0 ( 0.0%)	0 ( 0.0%)	0 ( 0.0%)
イタリア	1 ( 8.3%)	0 ( 0.0%)	0 ( 0.0%)	0 ( 0.0%)	0 ( 0.0%)	0 ( 0.0%)

(4) 外国人患者受入れの際の価格設定

外国人患者を受け入れるにあたり、37.5%の病院が「診療報酬単価と同じ又はそれ以下」の価格設定に抑えている。また、25.0%の病院が「診療報酬単価の 1.1 倍以上～2 倍未満」、37.5%の病院が「診療報酬単価の 2 倍以上」の価格設定としている。

N	診療報酬単価					
	同じ又は それ以下	1.1 倍以上 1.5 倍未満	1.5 倍以上 2 倍未満	2 倍以上 2.5 倍未満	2.5 倍以上 3 倍未満	3 倍以上
16	6 (37.5%)	2 (12.5%)	2 (12.5%)	4 (25.0%)	0 ( 0.0%)	2 (12.5%)

(5) 外国人患者の受入れをしている（する予定の）診療分野・診療科【複数回答】

外国人患者の受入れをしている診療分野・診療科としては、「健診・検診」が最も多く、次いで「概ね全診療・治療分野で受入」が多い。

診療分野	健診・検診	がん治療	心臓血管外科	循環器科	消化器科
回答数	7(19.4%)	1(2.8%)	3(8.3%)	4(11.1%)	4(11.1%)
N=36	脳神経外科	腎臓内科	整形外科	歯科	概ね全分野
	2(5.6%)	1(2.8%)	2(5.6%)	1(2.8%)	6(16.7%)
	内視鏡的 粘膜切除術	ペイン クリニック	放射線外科	外科	血管外科
	1(2.8%)	1(2.8%)	1(2.8%)	1(2.8%)	1(2.8%)

(6) 外国人患者受入れの実施（予定）にあたり、特に注力していく診療分野・診療科【複数回答】

外国人患者の受入れを注力していく分野としては、実際に実施している分野と同じく「健診・検診」が最も多く、次いで「概ね全診療・治療分野で受入」が多い。

診療分野	健診・検診	がん治療	心臓血管外科	循環器科
回答数	8(25.8%)	2(6.5%)	3(9.7%)	3(9.7%)
N=31	消化器科	脳神経外科	眼科	整形外科
	3(9.7%)	2(6.5%)	2(6.5%)	1(3.2%)
	歯科	概ね全分野	ペイン クリニック	
	1(3.2%)	5(16.1%)	1(3.2%)	

(7) 外国人患者受入れに向けた体制整備【複数回答】

外国人患者受入れのために実施している（しようとしている）こととしては、「医療通訳を院外から必要に応じて手配」、「契約書、同意書、検査内容説明書等の各種文書の多言語対応」、「多言語に対応した院内表示」が多くなっている。

外国人患者受入れに向けた体制整備	実施していること/ 実施しようとして いること（N=59）
外国人患者受入窓口（国際診療科等の専門部署・スタッフ）の設置	4（6.8%）
多言語に対応した院内表示	<b>8（13.6%）</b>
医療通訳を院内のスタッフとして配置	5（8.5%）
医療通訳を院外から必要に応じて手配	<b>10（16.9%）</b>
多言語に対応した医療従事者（医師・看護師など）の配置	4（6.8%）
外国人患者受入れに対応した診療施設、入院施設の設置	3（5.1%）
契約書、同意書、検査内容説明書等の各種文書の多言語対応	<b>9（15.3%）</b>
情報発信・プロモーション活動	4（6.8%）
国際医療コーディネーターとの連携	6（10.2%）
国際医療コーディネーター以外の機関（国内外の医療機関、自治体、旅行会社など）との連携	5（8.5%）
その他（国際医療コーディネーター育成研修への参加）	1（1.7%）

(8) 外国人患者受入れにあたってのサービスの実施主体

外国人患者の受入れにあたって、「医療通訳・医療結果翻訳」は、病院自ら又は外部委託により約8割が実施している。「患者情報の入手」、「同意書の締結」、「必要書類の翻訳」は約4割に止まっている。

業務名	概要	N	提供				未提供	
			自院	外部委託		(小計)		
				有償	無償			
事前	患者情報の入手	医療情報、患者情報の入手	17	3 (17.6%)	1 (5.9%)	4 (23.5%)	8 (47.1%)	9 (52.9%)
	同意書の締結	治療内容や治療費変更の可能性など、同意書を作成し、患者と締結	17	5 (29.4%)	1 (5.9%)	2 (11.8%)	8 (47.1%)	9 (52.9%)
	ビザの手配	ビザ取得に必要な書類の入手・作成	17	1 (5.9%)	2 (11.8%)	0 (0.0%)	3 (17.6%)	14 (82.4%)
	必要書類の翻訳	入退院関係の書類書類、検査・治療の同意書などの必要書類の翻訳	18	3 (16.7%)	3 (16.7%)	1 (5.6%)	7 (38.9%)	11 (61.1%)
	来日搬送の手配	日本までの移動や空港到着後から病院までの搬送などの手配	17	1 (5.9%)	2 (11.8%)	1 (5.9%)	4 (23.5%)	13 (76.5%)
	航空券・宿泊施設の予約	航空券や国内宿泊施設の予約	17	0 (0.0%)	2 (11.8%)	1 (5.9%)	3 (17.6%)	14 (82.4%)
滞在	空港・医療機関・宿泊施設の送迎同行	空港・医療機関・宿泊施設の送迎同行	17	0 (0.0%)	2 (11.8%)	1 (5.9%)	3 (17.6%)	14 (82.4%)
	医療通訳・医療結果翻訳	医療通訳が必要な場面(事前説明、受付、診察、検査等)における医療通訳	18	5 (27.8%)	8 (44.4%)	1 (5.6%)	14 (77.8%)	4 (22.2%)
	院内での特別食の提供	入院中の患者への宗教・信条(ベジタリアンやハラール食など)に合わせた特別食の提供	19	4 (21.1%)	1 (5.3%)	0 (0.0%)	5 (26.3%)	14 (73.7%)
	支払い手続き	費用の支払い手続き	18	7 (38.9%)	3 (16.7%)	0 (0.0%)	10 (55.6%)	8 (44.4%)
	生活面・観光での支援	日本滞在中の病院外での支援(通院同行含む)	17	0 (0.0%)	2 (11.8%)	0 (0.0%)	2 (11.8%)	15 (88.2%)
帰国	アフターケアの支援・再診の調整	帰国後のアフターケアの支援及び再診時の日程調整等の支援	17	1 (5.9%)	2 (11.8%)	1 (5.9%)	4 (23.5%)	13 (76.5%)

※複数選択した病院があるため、N数が異なっている。



(9) ビザ（査証）に関連する理由により、外国人患者の受入れに不都合が生じた事例【自由記載】

- ・観光ビザでの受診後に継続的治療を希望する場合、医療用ビザへの変更は困難であり一度帰国して再入国する必要があるため、内容的に治療が必要とされた方は速やかに観光ビザの延長手続を行っている。
- ・医療滞在ビザ取得に向けて治療内容・期間の目途を知るため、短期滞在ビザで突然外来に来院し診察を受けたいと言われるケースがある。検査でも非常に時間を要し、短期間では終了しない場合が多い。ビザコーディネーター事業所の中にも、短期滞在ビザでの受診を奨励する所があり困っている。

(10) 海外在住の外国人患者の受入れ全般についての意見・要望等【自由記載】

〈良い面〉

- ・高度医療の提供が可能となり、医療後進国のサポートにつながる。

〈不安な面〉

- ・言葉や生活習慣の問題がある。（主に精神科）（9件）
- ・診療費の支払が心配。（8件）
- ・医療通訳の手配と人件費。
- ・各種文書の多言語対応及び受入れを判断する為の患者情報の入手が困難。
- ・3次救急医療を担っており、急性期医療を圧迫する可能性がある。
- ・救急医療を中心に地域医療への貢献を最優先に継続したいため、現状では十分な環境整備はされていない。

〈課題・要望〉

- ・マイナー言語も含めた医療通訳の養成と資格化。愛知で受講できる養成講座があるとよい。

- ・一人に対して一人の通訳がついてほしい。
- ・各国毎の文化・宗教の学習及び理解する機会を設ける。
- ・受入れ患者に対する情報からサービスまでの全体を管理するコーディネーターが必要である。
- ・救急搬送以外は、前払い制度や第三者（保険会社など）の介入が必要。
- ・日本在住の外国人が、家族訪問ビザを使用して治療目的に海外から親族を呼び寄せるケースが多々ある。在日外国人向けの冊子を作成・配布してほしい。

#### 〈その他〉

- ・将来的には受入れを検討する必要がある。
- ・言語による障害がなければ受入れは可能。（日本語、英語での対応は可）
- ・国際医療コーディネーター養成研修について、ニーズが今後高くなると思う。
- ・受入れできる医療機関が事前に分かっていると対応しやすい。
- ・現状以上に設備環境や対応スタッフの増員など体制を整えなければならない。
- ・産科病院であるため、海外在住患者の受入れは今後も見込まれないと思う。
- ・保険診療を原則とし、先進医療の届出もしていないため、想定外。
- ・健診専用施設がなく、保険適用外自費治療での設定もないため、定期的な海外在住の外国人受入れは困難である。
- ・日頃から在日外国人受診・入院に携わっているが、微妙なニュアンスを伝えることが難しい。

#### (11) 海外への情報発信・プロモーションのために独自にしていること【自由記載】

- ・病院ホームページに英語・中国語を開設。
- ・中国語で自院のDVDを作成中。
- ・海外医療機関（タイ・ベトナム、ロシア）と協定を結び、患者の受け入れ（主に海外在住日本人）、医療者の相互研修、研究協力などを行っている。
- ・臨床修練制度に基づき外国医学部卒業者の日本での臨床研修を一部受け入れている。